

PURPOSE

パーパス（存在意義）

お客様の「あったらいいな」を超えて、
日常の未来を生みだし続ける。

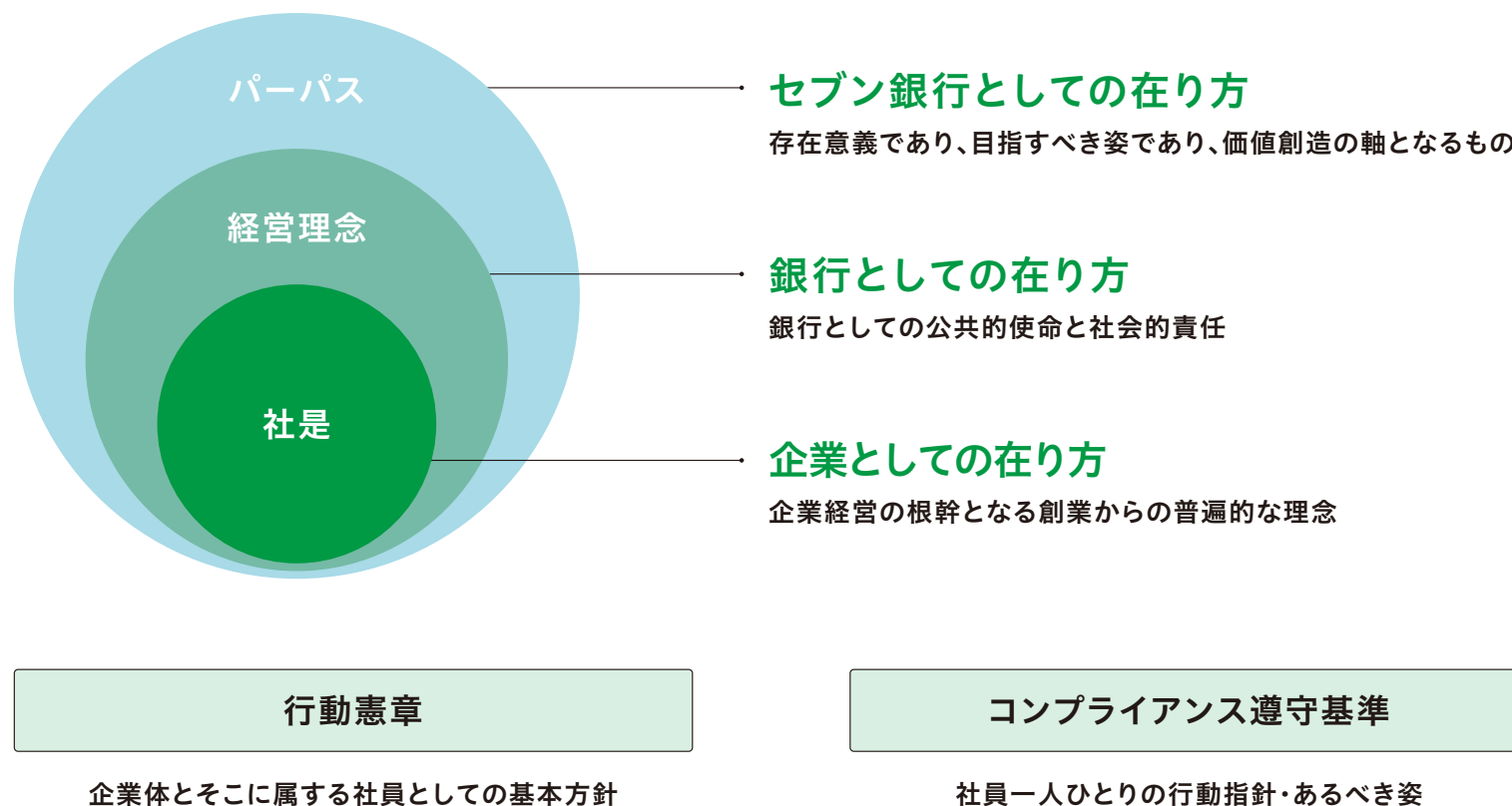
社是

1. 私たちは、お客さまに信頼される誠実な企業でありたい。
2. 私たちは、株主、お取引先、地域社会に信頼される誠実な企業でありたい。
3. 私たちは、社員に信頼される誠実な企業でありたい。

経営理念

1. お客様のニーズに的確に応え、信頼される銀行を目指します。
2. 社員一人一人が、技術革新の成果をスピーディーに取り入れ、自己変革に取り組んでいきます。
3. 安全かつ効率的な決済インフラの提供を通じて、我が国の金融システムの安定と発展に貢献します。

セブン銀行のパーパスは、設立から20年の節目に経営層と社員が議論を重ねて策定されました。その中で再認識したのは、創業時から大切にしてきた価値観である「お客さまの立場に立ち、新たな挑戦を続けること」こそが、私たちの原点であり、存在意義であるということ。100年に1度といわれる変化の激しい時代にあってお客さまの日常の暮らしに寄り添い、その想いや常識を超えて、日常の未来を生みだしていく。セブン銀行グループはパーパスとともに、これからも挑み続けてまいります。



セブン銀行グループが目指す姿

重点課題の達成に向けた取組みを通じてパーパスを実現し、社会・お客さまと会社の双方に持続可能な価値を創出します。

多様な選択肢のある社会

ウェブでもスマートフォンでも、窓口でも、そしてATMでも。あらゆるサービスの手続きや認証が、全国のセブン銀行ATMでできる世界を目指します。



誰一人取り残されない社会

革新的で利便性の高いサービス提供を通じて、ビジネスパーソン、ひとり親家庭、ご高齢の方、外国人居住者、障がいをお持ちの方など、誰一人取り残されないデジタル社会の実現に貢献します。



暮らしやすい日常

一人ひとりの人生が豊かになるように、世代間、地域や情報等の格差による不公平を減らします。日常の暮らしのそばに、誰でもアクセスできる安心・安全なサービスを提供します。



持続可能な社会と地球環境

将来世代に向けて地球環境と社会の持続可能性を追求します。パートナー企業と環境負荷低減の取組みを推進し、金融知識や金融犯罪防止につながる金融リテラシーの浸透に努めます。



パーパス

お客さまの「あったらいいな」を超えて、
日常の未来を生みだし続ける。

セブン銀行グループの重点課題



根源的価値

いつでも安心・安全に使える
社会インフラを提供する



社会的価値

誰でもどこでもアクセスできる
多様なサービスを実現する



新たな価値創造

お客さまの期待を超えた
ユニークな価値を創る



価値創造の源泉

誰もが活躍できる
社会づくりを進める



将来への価値創造

豊かな社会と地球の
未来に貢献する

セブン銀行グループ At a Glance

※2024年度末時点



財務情報

ATMプラットフォーム事業を核に強固で健全な財務基盤を構築しています。

連結経常収益

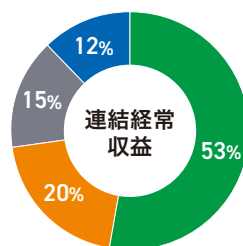
2,144億円

自己資本比率
(連結・国内基準)

29.13%

事業別ポートフォリオ

- ATMプラットフォーム事業
- 海外事業
- クレジットカード・電子マネー事業
- 国内リテール・法人事業



根源的価値

セブン銀行グループはATM設置台数ベースで国内シェア第2位、世界でもトップレベルのATM運営オペレーターです。事業パートナーとの協業により、「24時間365日止まらないATM」を実現し、いつでも安心・安全に使える社会インフラを提供しています。

ATM稼働率

99.98%

国内ATM

27,990台

海外ATM

21,159台



社会的価値

日常生活の身近な場所にATMを設置し、キャッシュレス社会を支える現金チャージや銀行窓口代わりの諸手続きなどの便利なサービスが広がっています。また、小売×金融の強みを活かした預金・決済サービスも提供しています。

ATM総利用件数

10.8億件

ATM提携先数

682先

個人預金口座

335万口座

クレジットカード会員

317万人

電子マネー「nanaco」会員

8,331万人



新たな価値創造

顔認証で入出金取引ができる「FACE CASH」、セブン-イレブン等で利用される「7iD」の購買データを活用した個人ローンの与信、外部パートナーとのサービス共創など、当社グループならではのユニークな価値を創造しています。



価値創造の源泉

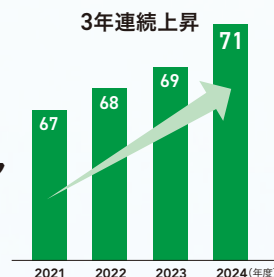
セブン銀行社員703名のうち、約8割がキャリア社員。多様なバックグラウンドとスキルをもった人財が集まり、セブン銀行ならではの革新的なサービスの数々を生みだしています。

キャリア社員比率

77.5%

エンゲージメントスコア

71



将来への価値創造

サステナビリティを経営の根幹と位置づけ、ATMの製造・運用における環境負荷低減や、将来世代への金融教育などを積極的に推進しています。



ATMリユース・リサイクル率

約100%

小学生向け金融教育教材の提供、金融犯罪教育の出張授業を積極実施

TOP MESSAGE

パーパスの実現を目指し、
日本初、世界初の価値を
生みだし続ける。
時代の転換期においても
「ユニーク」な存在であり続けます。

代表取締役社長

まつはし まさあき
松橋 正明



パーパスを具現化した 新たなサービスが続々

2024年度は、2021年4月に掲げたパーパス“お客さまの「あったらいいな」を超えて、日常の未来を生みだし続ける。”に込めた想いが、具体的なサービスとしてお客さまのもとに次々と提供できる段階に入りました。

2019年9月より導入した「第4世代ATM」では高機能を活かし、あらゆる手続きや認証がATMで可能となる「+Connect」（プラスコネクト）サービスを提供しています。2025年2月には新たな金融体験としての顔認証入出金サービス「FACE CASH」（フェイスキャッシュ）を開始しました。また、給付金などを現金で受取れる「ATM受取」の導入自治体も拡大しており、ATMを起点としてお客さまや地域社会に寄り添うサービスを次々と生みだしています。

さらに、日本で働く外国人の方々が、条件を満たせば来日6カ月未満でもATMで口座開設できるサービスを2024年12月に始めました。日本の金融業界では珍しい10言語対応のコンタクトセンターも整備しています。国内の人口減少に伴う、外国人労働者の増加が今後も見込まれる中、外国人が日本で安心して暮らせる環境を整え、誰もが活躍できる社会づくりに資するサービスをこれからも開発していきます。

今、世の中は猛スピードで変化しています。全ての産業が、消費者ニーズや販売チャネルの多様化、原材料・人件費の

高騰に直面し、DX（デジタル・トランスフォーメーション）による高度化や差別化戦略を求められています。金融業界も例外ではありません。キャッシュレス決済比率は40%を超え、「金利のある世界」の中で預金獲得競争が激化、さらには異業種も絡んだ合従連衡が進んでいます。

小売業発の金融機関である当社は、コンビニATMを展開するユニークなビジネスモデルを活かして多様な社会課題を解決し、お客さまに新たな価値を創造するため、タイムリーに業界初、日本初、世界初のサービス創出に挑み続けています。

連結経常収益は過去最高も利益面に課題。中期経営計画最終年度へ

2024年度はATM利用件数の伸びに加えて海外事業が好調だったこと、さらに、2023年7月に連結子会社化したセブン・カードサービスの収益が年間を通じて計上されたことで、連結経常収益は2,144億円と初めて2,000億円を突破し、過去最高となりました。一方で、連結経常利益は302億円となり、ピークに比べると100億円ほどの減少となっています。これまで続けてきた成長投資に対し、コスト先行になっている部分があり、2024年度全体としては、利益面を中心に厳しい状況となりました。

2025年度は中期経営計画最終年度です。現在の業



績予想では、2025年度は連結経常収益2,160億円、連結経常利益245億円としており、当初の収益目標2,500億円、利益目標450億円にまだ達していない状況です。2025年度はこのギャップを少しでも埋めるために、事業全体での収益性向上に注力し、主軸であるATM事業を次の成長ステージへと引き上げるとともに、海外事業とリテール事業については次の収益の柱となるよう事業基盤を固めていきます。数年以内には当初の収益目標、および利益目標を実現できるようにしっかりと取り組んでまいります。

また、当社は、2025年6月20日に、株式会社セブン&アイ・ホールディングスの完全子会社である株式会社セブン-イレブン・ジャパン、株式会社イトーヨーカ堂、株式会社ヨークベニマルの3社等から約508億円相当の自己株式を取得しました。この結果、当社はセブン&アイ・ホールディングスの子会社ではなく、持分法適用関連会社となりましたが、今後もセブン-イレブン店内に設置したATMを中心に、密に連携を図りながら事業を拡大していく方針に変わりはありません。一方、親子上場関係解消を機に、当社経営の独立性・中立性がより一層高まることから、これまで以上に柔軟な事業戦略を推進していけるものと考えています。なお、今回取得した自己株式については、今後の経営環境の変化や、経営戦略を踏まえ、機動的に活用していく方針です。

これからも当社独自のユニークな強みを活かし、パーパスを軸とした成長戦略を着実に進展させ、持続的成

長と企業価値の向上に取り組んでまいります。

🔄 P13 財務戦略担当役員メッセージ

🔄 P39 中期経営計画の進捗

質の向上で国内ATM業界をリードし、面の拡大を追求

主力である国内ATM事業は、現金の入出金を行う“現金プラットフォーム”から、お客さまの生活に密着した“サービスプラットフォーム”である「ATM+」（プラス）へ進化中です。2025年3月には「第4世代ATM」の全国約28,000台の入替・設置が完了し、これにより、前述の「+Connect」サービスを全国で均一に展開できる体制が整いました。銀行支店に代わり窓口業務を行う「ATM窓口」サービスと、郵送に代わってお知らせ業務を行う「ATMお知らせ」サービスを導入している提携先は20先を超えて拡大を続けており、コンビニが銀行支店の役割を果たすようになってきました。また、スマートフォンだけで現金の入出金ができる「スマホATM」が浸透しつつあり、ATMの便利な活用事例が広まっています。こうした、お客さま、提携先さまのニーズに合わせた新機能を継続的にリリースするとともに、ATM台数を伸長させることによって、日本全体のATM台数が減少する中でも当社ATMのシェアは15%以上に拡大しました。引き続きATMのネットワークを拡充し、「ATMといえばセブン銀行」と言われるよう努力することで、基幹事業である国内ATM事業の競争力をさらに強化してまいります。

🔄 P41 ATMプラットフォーム戦略

小売業発の金融機関ならではの発想で 利便性の高い金融サービスを提供

2024年度は、当社グループとセブン-イレブンのシナジーを追求し、より買い物に便利な決済へとサービスを強化した1年でもありました。セブン銀行口座、クレジットカード「セブンカード・プラス」、電子マネー「nanaco」と、セブン-イレブン等で利用される「7 i D」がシームレスにつながり始めています。「セブンカード・プラス」の会員獲得施策では、20代～30代の利用者の増加、セブン-イレブンでの購買単価、利用回数の向上につながっています。「7 i D」の購買データをマーケティングや個人ローンの与信に活用する取り組みも開始し、個人向けカードローン残高は2025年度末の目標である800億円を達成する見込みです。今後も小売×金融の強みを活かしたサービス展開を進めてまいります。

⇒ P45 リテール事業対談

海外で2万台以上のATM網を展開、 さらなる収益多角化へ

重要な成長戦略の一つである海外市場の開拓も着実に進んでいます。先行する米国、インドネシア、フィリピンでは、2024年度末でATMは合計21,000台超、総利用件数は5億件超と順調に事業規模を拡大しまし

た。海外事業全体の経常収益は435億円と当社グループ連結経常収益の約20%を占め、事業ポートフォリオの多角化にも貢献しています。先行投資により、利益面で後ずれはしていますが、2025年度には3社とも通期黒字化を達成する見込みです。2025年1月に事業を開始したマレーシアを含め、日本でのノウハウを活かし、各地域のニーズに合ったサービスを提供し、さらに利益率を高めていきます。

⇒ P51 海外事業



金融インフラの利便性・安心・安全を 社会に届ける

法人向け事業の、株式会社ACSiON（アクション）は金融機関向けのフィッシング対策サービスで業界シェアを拡大しています。バックオフィスの分野では株式会社バンク・ビジネスファクトリー（BBF）が金融機関の事務受託やAML/CFTのコンサルティングなど信頼

AIを使い自ら業務を改革する社員たち。 人が育ち、会社が育つ。 「あるべき姿」が見えてきた。

性の高いサービスを提供しています。当社事業から得られたノウハウを活用し、セキュリティ技術を磨き上げ、安心・安全を守る事業パートナーとして、金融業界を支えています。

⇒ P50 法人戦略

自律的に考え挑戦するカルチャー

当社のパーパスにある“お客さまの「あったらいいな」を超えて”とは、お客さまがまだ気付いていない、顕在化していない価値を創り出していくということです。生活に密着した「コンビニ」という場でビジネスをしているからこそ、社会課題を把握し発想を豊かにビジネスを創出できるのだと思います。そのために大切なのは、自律型人財のイノベーションマインドを育て、誰でも挑戦できるカルチャーを醸成させていくことです。

その一環として、業務評価の10%をイノベーション活動の成果とする「EX10」（エクステン）という取り組みを続けています。この制度のもと、IT部門だけでなく、

バックオフィス部門やコーポレート部門でもAI・データ活用や、プログラミングの知識が少なくても容易に開発可能なノーコード・ローコードのアプリを自ら開発し、日々の業務を効率化しています。与えられた業務を「こなす」のではなく、社会の変化に合わせて業務を改革していくことが社員の役割になっています。これからはデジタルを使いこなすことは社会人の基本スキルという時代です。日々の業務はできるだけAIに任せ、人間はAIにはできないクリエイティブな業務に専念する姿が理想です。

「EX10」の成果として、常に新しいことに挑戦するカルチャーが定着しました。経営の指示を受けて動くのではなく、能動的に自ら走り出す社員が増え、その結果が業務の多角化・高度化につながっています。社員の成長が、企業の成長を導いているのです。当社が目指してきた「あるべき姿」が実現できつつあると感じています。

⇒ P53 人財戦略 役員対談

成長戦略とつながる サステナビリティ推進

セブン銀行グループが目指すべき姿とは、常に新しい「便利」をお客さまに提供しながら事業成長を続けることです。少数精鋭の企業ゆえ、ITを駆使し合理性・効率性を極めて収益を高めていく。さらに、日本初、世界初の価値を生み出すユニークな存在であり続けるためには、チャレンジし続けることが大事です。また、当社は社員の8割が中途採用で成り立ち、多様な人財がそろっています。DEIが活きる環境と新たな挑戦を推奨する企業風土を確立することがイノベーションを生み出す力になっています。

事業拡大に留まらず、成長戦略とつながるサステナビリティ推進にも、企業の社会的責任として真正面から取り組んでいます。当社は重要な開発テーマの一つとして、ATMの消費電力抑制を進めてきました。第4世代では第3世代と比較して40%省電力化し、生産時やリサイクル時の環境負荷低減を進めました。今後は警備関連や保守点検関連のパートナー企業さまなどと連携した取り組みも進めていきます。「保守点検サイクルの見直し」「インフラや物流の共通化」など環境負荷低減につながるオペレーションの検討のほか、各社の強みを活かして、本業を通じたより幅広い社会課題の解決につながる協業の形を一緒に検討しています。

⇒ P21 セブン銀行グループの重点課題

ステークホルダーの皆さまへ

社員に対しては朝礼などで必ず「社会変化に対応し、お客さまに評価される企業になろう」と伝えています。社員一人ひとりのチャレンジは、企業や社員自身の成長だけでなく、日本という国そのものの革新力につながることを社員には意識してほしいと思います。地域社会とお客さまに対して、当社の強みとユニークさを発揮しながら、日常の暮らしに寄り添うサービスをお届けする

ことを誓います。金融機関などのお客さまに対しては、未来をともに考える「共創」のパートナーでありたいと考えています。あらゆる産業の境目がなくなり大転換する中で、同じ未来を目指すパートナー企業と共創し、非連続の価値を生みだしていかなくては生き残れません。

当社は開業以来、お客さまと業界のニーズを発掘し、サービスを提供し続けてきました。今後もパーパスの実現に向けて事業を進め、日常の未来を生み出す存在であり続けます。

最後に投資家の皆さまへ。業績面でまだ十分にご期待に応えられていませんが、当社は確実に変わり始めています。過去を振り返れば「コンビニATM」が定着するまで多大な時間と労力を要しました。そして今、ATMそのものの価値の転換という大きな課題にチャレンジしている段階です。必ず新たな成長につながる道筋を明確に示し、当社グループの持続的な成長と還元を実現していきます。一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

**サステナビリティ推進にも
真正面から取り組み、
社会課題の解決にも貢献。**



事業パートナーさまと第9回 サステナブル・ブランド国際会議 2025 東京・丸の内に登壇



強固な財務基盤をベースに
収益性と成長性を高め、
中長期的な企業価値向上を
図ります。

常務執行役員
企画部、
ブランドコミュニケーション部、
SDGs推進担当

しみず けん
清水 健

過去最高収益達成も、連単とも減益
成長領域への先行投資が影響

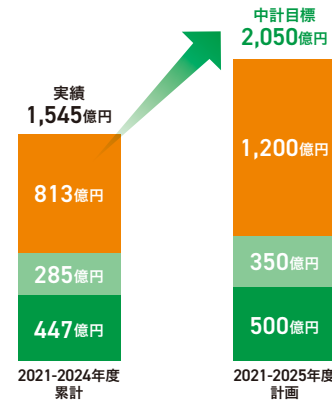
2024年度は、連結・単体ともに増収減益となりました。主力の国内ATM事業で、総利用件数が、前年比5,000万件増の10億8,900万件となるなど、セブン銀行単体の業績が好調に推移したこと、海外各国の収益がいずれも増収となったこと、セブン・カードサービスの収益が年度を通じて計上されたこと（2023年度は期中の買収のため買収後の9か月分が計上されたのみ）等から、連結経常収益は、初めて2,000億円を突破し、前年比8.3%増の2,144億円（過去最高）となりました。この結果、2020年度から2024年度に至る5年間の連結経常収益のCAGR（年平均成長率）は11.8%となりました。過去最高の収益を記録し、高い成長率を達成したのもさることながら、ここ数年進めてきたポートフォリオの複線化により、国内ATM事業

財務目標

(単位: 億円)

	2022年度 実績	2023年度 実績	2024年度 実績	2025年度 計画	2025年度 中計目標
連結経常収益	1,549	1,978	2,144	2,160	2,500
国内事業	1,231	1,590	1,708	1,731	1,875
(うちATMプラットフォーム事業)	1,040	1,110	1,134	1,150	1,050
海外事業	318	388	435	429	625
連結経常利益	289	305	302	245	450
EBITDA(連結)	484	539	594	—	800
ROE(連結)	7.6%	12.2%	6.6%	—	8%以上

投資計画



2021年度から2024年度の主な投資案件

成長投資

- 国内成長領域への投資
 - 新規M&A(セブン・カードサービス子会社化)
 - ATMサービスプラットフォーム関連投資 など

海外事業への投資

- インドネシアやフィリピンにおけるATM関連投資など

企業変革推進への投資

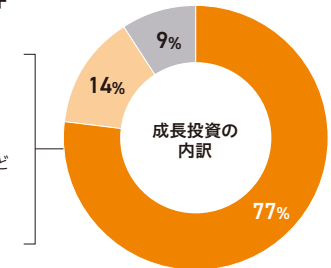
- データ統合基盤の構築
- RPAの構築・運用 など

インフラ維持

- 安心・安全なネットワークの構築
- 新たな金融サービスを実現するシステム構築

ATM設置

- 第4世代ATMへの投資



だけでなく、複数事業で相応の収益規模を確保できたのは大きな成果と考えています。一方、第4世代ATM導入や「+Connect」(プラスコネクト)サービスへの投資等、成長投資に伴う減価償却費増等を主因に、費用が増加したことから、連結経常利益は302億円、同純利益は182億円と、減益となりました。

中期経営計画目標との乖離は大きい ただし、目標としている数字は 数年内には達成できる

連結経常収益2,500億円、連結経常利益450億円、ROE(自己資本利益率)8%以上という目標を掲げた中期経営計画は、2025年度が最終年度ですが、対外公表済の2025年度計画は、連結経常収益2,160億円、連結経常利益245億円であり、目標と乖離しています。内訳を見ると、

単体は目標を上回る見通しながら、海外グループ会社とセブン・カードサービスの計画が目標と大きく乖離したことが主因です。ただし、海外グループ会社は、2024年度の夏以降、米国が黒字となったほか、アジアは増収増益を続けており、セブン・カードサービスについても、ここ数年戦略的にコストをかけ、クレジットカード会員を増やすことで将来の芽が出てくると考えています。従って、中期経営計画で掲げた目標数字は、2025年度に達成ができなくとも、数年内に達成できると考えています。

収益性、成長性に課題 これらを高めることで 持続的な企業価値向上へ

財務責任者としての私の役割は、株主の皆さまに適切な利益還元を行いながら、安定性、収益性、成長性をバ

ランスさせつつ全体の業容を拡大していくことです。

当社は2025年6月におよそ508億円の自己株式の取得を実施し、株式会社セブン&アイ・ホールディングスの連結子会社から外れました。この自己株式の取得後も当社の自己資本比率は20%以上と高い水準にあり、外部からの格付についても一部見直しはありましたが、高い水準を維持しています。自己資本比率が高過ぎるという声もいただきますが、当社には、金融機関という側面だけでなく、日本全国に張り巡らされたATM網を常に安全確実に運営し続けねばならないというインフラ事業者としての側面もあり、リスクアセットに見合う自己資本確保、M&Aも含めた将来の成長戦略を機動的に実現するために必要となる自己資本確保に加え、インフラ事業者としての責任を果たすために各種リスクに備える自己資本確保が必要なことから、現在の水準は適正であると考えています。今後も適切な自己資本水準を維持しつつ、

財務戦略担当役員メッセージ

株主の皆さまに安定的な配当を継続することで、着実な利益還元を行ってまいります。高い自己資本比率に裏打ちされた強固な財務基盤が示すとおり、安定性については、現時点で懸念はありません。なお、当社は、ATMプラットフォーム事業が主力事業であることから、金利上昇局面では、現金調達コストを中心としたコスト増による財務影響を心配される方もいると思いますが、当社では、複数シナリオを想定し、ATM機内現金のコントロール等に取り組んでおり、金利上昇による財務影響は限定的なものに抑えられると考えています。

一方、収益性、成長性については、課題があります。

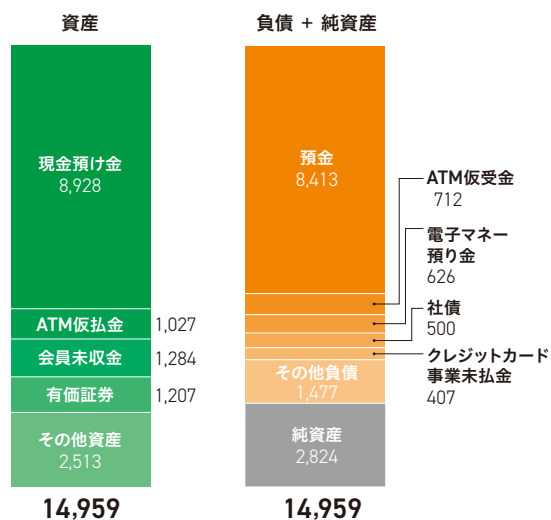
収益性とは「稼ぐ力」であり、端的には、利益率やROEで示されます。いずれもここ数年低下傾向のため、この回復が急務だと認識しています。また、成長性とは「将来の成長可能性」であり、目指すべきは収益やEPS（1株当たり純利益）の成長です。収益こそ、連結・単体ともにここ数年継続的に成長しているものの、EPSは低下傾向にあります。この間、直近5年間のTSR（株主総利回り）は、安定的な配当を継続してきたことから、100%を超えています。収益性、成長性の向上により、株価を引き上げることができれば、さらに上昇させることができると考えています。

最優先で取り組むべきはROE8%回復 売上高純利益率、財務レバレッジ、 総資産回転率改善に速やかに取り組む

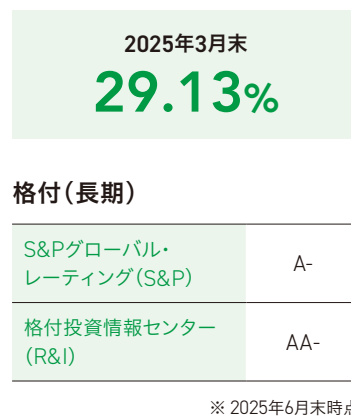
最優先で取り組むべきはROE8%の回復です。2024年度実績のROEは6.6%。対して、CAPM（資本資産評価モデル）に基づく資本コストは5%台半ばと認識しています。現状は資本コストを上回るROEを達成していますが、ROEと資本コストの差分であるエクイティスプレッドとPBR（株価純資産倍率。2024年度実績で1.18倍）や株価は、ある程度連動して動くことから、財務・非財務

2025年3月末連結貸借対照表

（単位：億円）



自己資本比率（連結・国内基準）

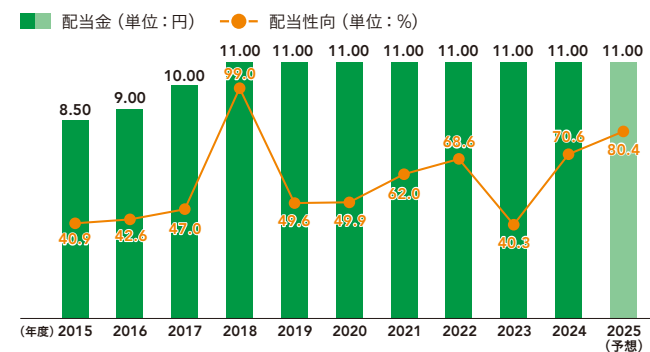


基本方針

強固な財務基盤を背景に、
配当中心の
安定的・継続的な
株主還元を実施

実額にも配慮しつつ、
配当性向
40%以上を維持

配当金／配当性向



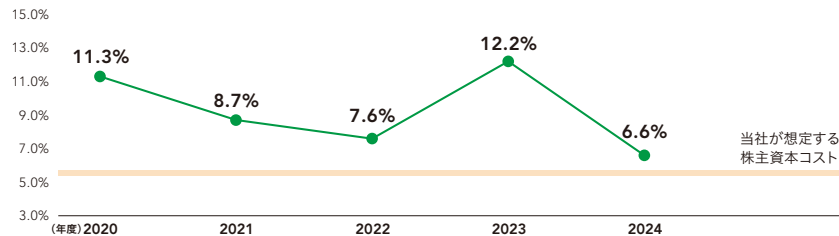
TSR（株主総利回り）※の推移

（単位：%）

2022年度	2023年度	2024年度
106.81	121.86	120.07

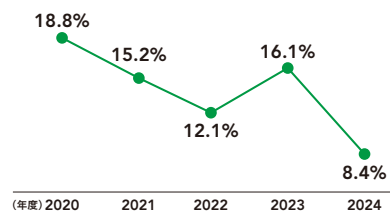
※ TSR（株主総利回り）：Total Shareholder Returnの頭文字を取った略称。株式投資により得られた総収益（配当とキャピタルゲインの合計額）を投資額（株価）で割った比率。

ROEの推移



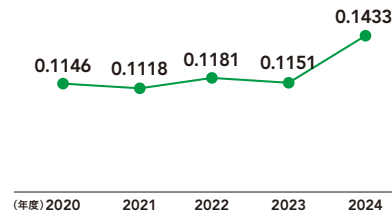
売上高純利益率（収益性）

※売上高純利益率＝当期純利益÷経常収益



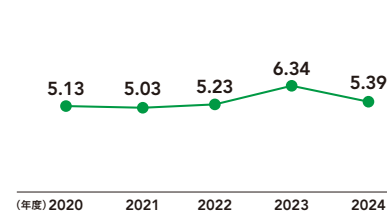
総資産回転率（効率性）

※総資産回転率＝経常収益÷総資産



財務レバレッジ（負債活用度）

※財務レバレッジ＝総資産÷自己資本



情報発信の強化、株主や投資家の方々とのエンゲージメント強化による資本コスト引き下げと同時に、ROEを高めることによりエクイティスプレッドを拡大し、PBRや株価向上につなげることが重要と考えています。

ROE向上に向けては、利益率の高い事業（国内ATM事業）の強化と業務効率化等による経費適正化を通じた「売上高純利益率」改善、リスクアセット（個人向けローン等）拡大による「財務レバレッジ」改善、低採算資産（必要以上のATM機内現金等）圧縮による「総資産回転率」改善に取り組んでいきます。一朝一夕にROE向上を図るのは難しいかもしれませんが、速やかに上記対応を実行していきます。

当社株式については、比較的小額で投資ができ、配当利回りが相対的に高い点を多くの投資家や株主の方々に、ご評価いただいています。一方、利益率やROEの低下、それらを反映したTSRの伸び悩みに対して、ご不満の声があることも認識しています。しかし、積極的な成長投資の継続により、お客さまのニーズを先取りする形でサービス高度化を進めていかなければ、お客さま離れを招きます。従来の入出金専用ATMが、キャッシュレス化や生活様式の変化を受けて減少傾向にあるのはその現れでしょう。決済機能に加え、本人確認機能等を備えた当社の多機能ATMは、今後ますます重要な社会インフラになるはずです。ATM事業をさらに磨き上げるべく積



極投資を行いつつ、ポートフォリオの複線化を進め、さらに利益率とROEの改善を図ることは容易ではありませんが、当社はこれに正面から取り組んでいきます。

今後も株主や投資家の方々には、こうした戦略を丁寧に説明して、ご理解いただくとともに、信頼関係を構築していきたいと考えていますので、是非長期的な視点からご評価・ご支援いただければ幸いです。

セブン銀行グループの進化の歴史

社会の変化とともに変わる「あったらいいな」に応え、進化し続けるセブン銀行

「コンビニにATMがあったら・・・」

金融犯罪の増加・インバウンド市場の拡大・
バリアフリーへの社会的要請

在日外国人労働者の増加、スマートフォンの急速な普及と



2001～ 第1世代ATM

24時間365日、いつでも、だれでも、
どこでも安心して利用できる
安全かつ効率的な決済インフラを構築

2001

- 「株式会社アイワイバンク銀行」設立



アイワイバンク銀行

- ATMサービスと銀行口座サービスの開始
- セブン-イレブン店舗内にATMが誕生



- 売上金入金サービスを提供開始



2005～ 第2世代ATM

日本初のセカンドディスプレイを搭載し、
処理速度4倍、容量2倍の高速大容量化を実現。
国際標準のセキュリティに対応し、さらなる拡張性を確保

2005

- 社名を「株式会社セブン銀行」に変更

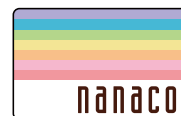


2006

- ATMでのICキャッシュカードの対応
- セブン銀行ICキャッシュカードの発行開始

2007

- 47都道府県へのATM展開完了、
セブン&アイグループ以外へのATM設置開始
- ATMでの海外発行カード対応、
電子マネー「nanaco」チャージ開始



- 視覚障がい者向け音声ガイダンスによるATM取引の開始

2008

- JASDAQ証券取引所(当時)に上場



2010～ 第3世代ATM

紙幣処理や取引再開に要する時間を短縮、紙幣
徹底した省エネ設計で地球温暖化防止や廃棄物

2011

- 東京証券取引所市場第一部(当時)に上場
ATMでの海外送金サービス開始

2012

- 米国のATM運営事業会社を完全子会社化

2013

- 海外送金カスタマーセンター
(現:コンタクトセンター)稼働開始

2014

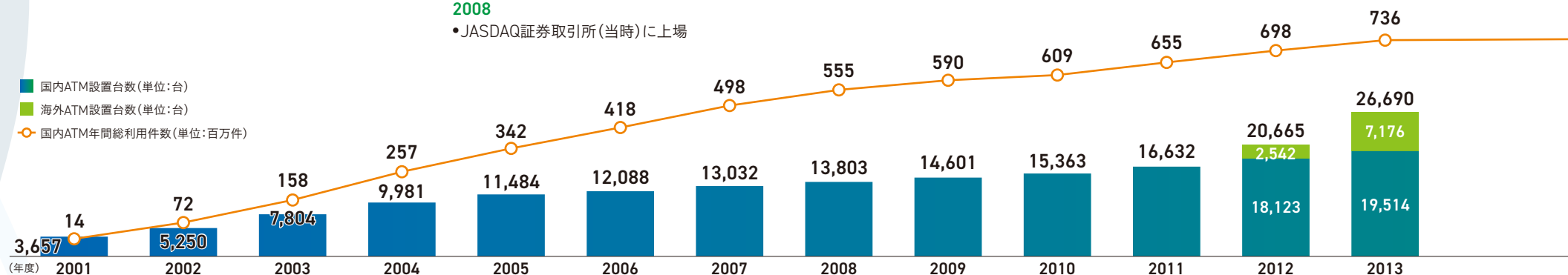
- セブン銀行口座のATM取引画面の9言語表示開始
- 事務受託事業を行う(株)バンク・ビジネスファクトリー設立
- インドネシアにATM運営事業会社を設立

2015

- 海外発行カードのATM画面、明細票などで12言語対応



■ 国内ATM設置台数(単位:台)
■ 海外ATM設置台数(単位:台)
○ 国内ATM年間総利用件数(単位:百万件)



技術革新による社会変化で多様化する決済サービス

フィンテック等の技術革新によるデジタル化、高度化・巧妙化が進む金融犯罪やセキュリティへの不安

の収納容量を増やし、現金補充コストも抑制。
削減にも配慮

2016

- デビット付きキャッシュカードを発行開始

2017

- カードレスで入出金可能な
「スマホATM」サービスを提供開始

2018

- 交通系電子マネー等のチャージ開始
- 送金・決済サービスを行う(株)セブン・ペイメントサービス設立
- (株)セブン・ペイメントサービスが「ATM受取」開始



2019～ 第4世代ATM

顔認証、本人確認書類やQRコード※の読み取り、Bluetoothなどの多彩な機能を搭載

2019

- 本人確認、不正検知プラットフォーム事業を行う
合併会社(株)ACSIONを設立
- フィリピンにATM運営事業会社を設立

2020

- 即時口座開設が可能なスマホアプリ
「Myセブン銀行」を提供開始
- ATMでマイナンバーカードでの
手続き開始(マイナポイント申込み)



2021

- 創業20周年を節目にパーパスを制定
- ATMでマイナンバーカードでの健康保険証利用の申込開始
- 「セブン銀行後払いサービス」開始

2022

- 東京証券取引所プライム市場に移行
- (株)セブン・ペイメントサービスが「ATM集金」開始
- 金融商品仲介サービス「お買い物投資コレカブ」をリリース
- ATMで「マイナポータル情報連携サービス」を提供開始

2023

- (株)セブン・カードサービスを連結子会社化
- 「ATM認証コード発行サービス」を提供開始
- 「+Connect」サービス開始
- 「ATMお知らせ」「ATM窓口」を提供開始

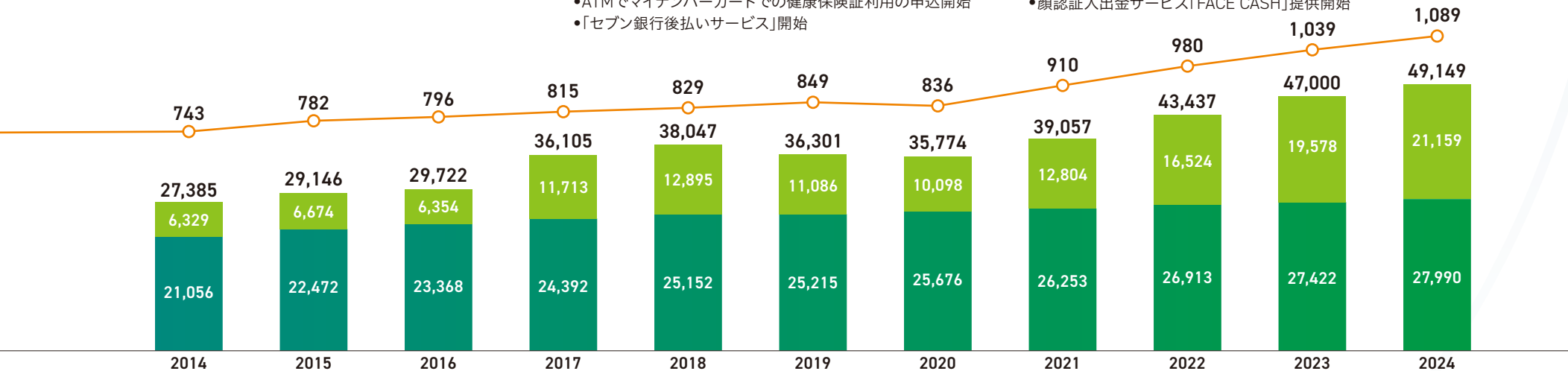
サConnect
プラスコネクト

2024

- マレーシアにATM運営事業会社を設立

2025

- 顔認証入出金サービス「FACE CASH」提供開始



※QRコードは、(株)デンソーウェーブの登録商標です。

セブン銀行グループの全体像

盤石なATM事業を中心に、海外事業、金融リテール事業や法人向け事業で多角化を推進

ATMサービスの提供(国内ATM事業)



社会インフラであるATMを軸として、現金入出金取引から各種手続きまで、多様なお客さまの多様なニーズに対応

- 現金入出金取引
- 現金チャージ取引
- ATM窓口(口座開設・情報変更サービス)
- ATMお知らせ(ATM取引時の各種案内サービス)
- マイナポータル情報連携サービス



海外でのATMサービスの提供(海外事業)

海外4カ国約2万台のATMを通じて、各国のマーケットニーズに応じたユニークな金融サービスを提供

- 入出金取引
- 小売 × 金融サービス



米国



インドネシア



フィリピン

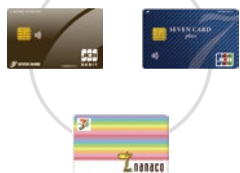


マレーシア



個人向け金融サービスの提供

小売発の金融機関として、お客さま視点に立ち、日々の生活に寄り添う金融サービスを展開



口座サービス

- 預金
- 後払い
- デビット
- 金融商品仲介
- ローン

クレジットカード・電子マネーサービス

- クレジットカード
- 電子マネー

法人向け金融サービスの提供

銀行事務、セキュリティ対策や不正検知など専門性の高いサービスで金融インフラの安全性と利便性を向上

- 事務受託(BPO)
- 本人確認、不正検知

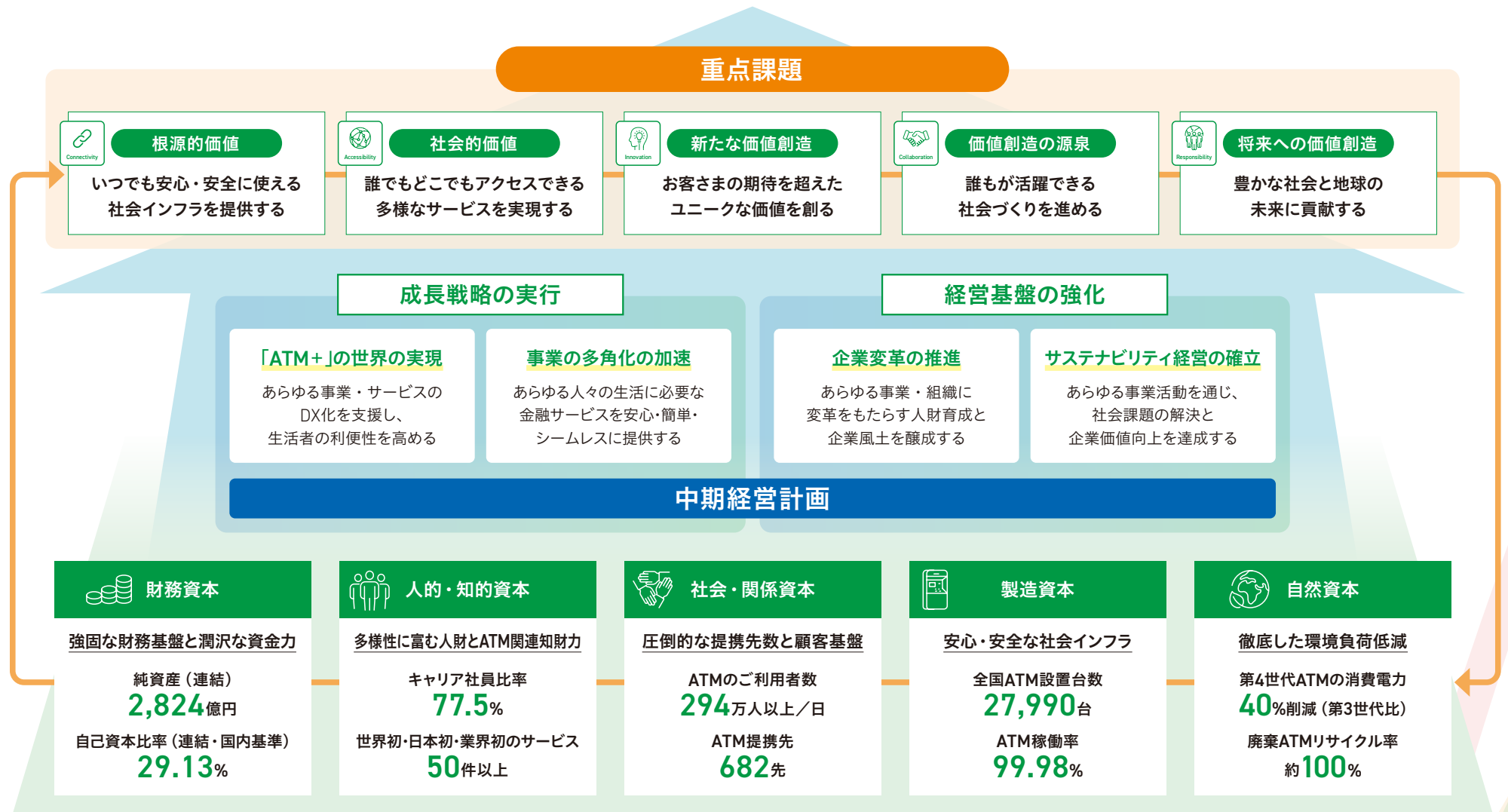


セブン銀行の100%子会社
バンク・ビジネスファクトリー



パーパスの実現に向けて、当社らしい価値創造を継続することで、持続的成長と企業価値向上を実現

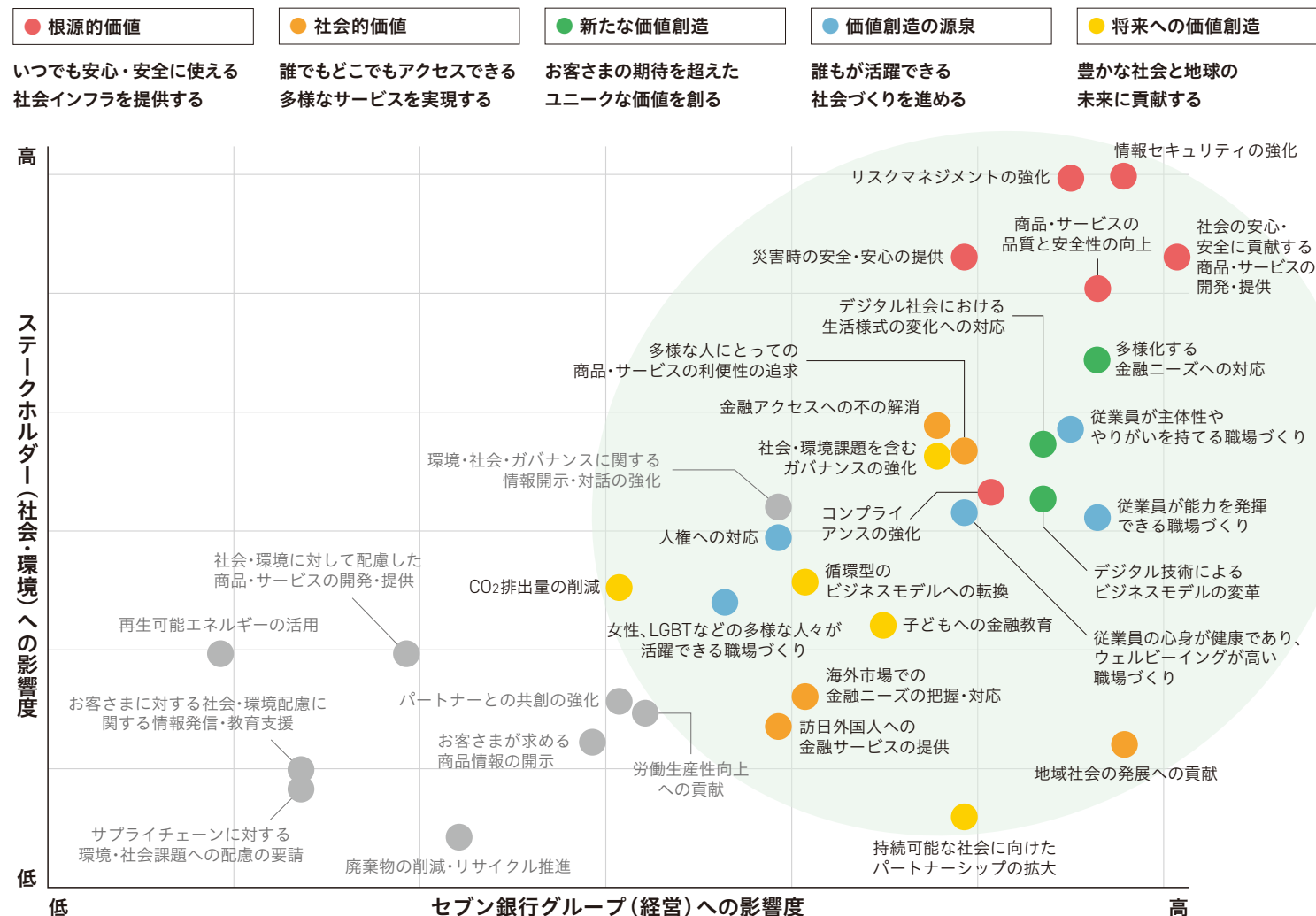
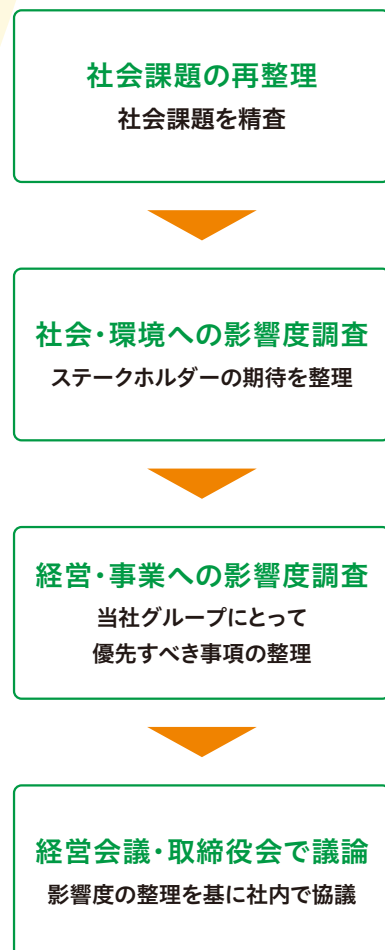
パーパス:お客さまの「あったらいいな」を超えて、日常の未来を生みだし続ける。



セブン銀行グループの重点課題 策定プロセス

セブン銀行グループでは、サステナビリティを長期的な経営戦略の根幹に位置づけ、本業を通じて、多様化する社会課題の解決と新しい価値創造を目指し、さまざまな取り組みを実践しております。その中で、パーパスを実現するための価値創造の観点から、当社グループとして優先的に取り組む課題を5つ抽出し、「重点課題」として掲げております。

重点課題策定のプロセス



5つの重点課題に取り組むにあたっては、当社が目指す姿を明確にし、SDGs達成への貢献を紐づけるとともに、当社の価値創造における資本にどのような影響をおよぼすかを整理しています。

重点課題	当社が目指す姿	SDGsへの貢献	資本への影響				
			財務資本	人的・知的資本	社会・関係資本	製造資本	自然資本
1 いつでも安心・安全に使える 社会インフラを提供する	平時・有事にかかわらず、万全なセキュリティ体制と、緊急時でも稼働休止を最小限に留める態勢を構築し、日常の暮らしの中で、いつでもご利用いただける多様なサービスを提供し、社会に安心・安全を与える社会インフラとなる	  	年間10億円を超えるATM取引で創出される収益	「止まらないATM」を実現するオペレーションの構築 - 安心・安全な金融サービスを提供する仕組み	ATMネットワークを支えるパートナー企業との強固な関係構築	高機能／高性能を誇るATM筐体の設計	
2 誰でもどこでもアクセスできる 多様なサービスを実現する	「社会で最もやさしいデジタルチャネル」を目指し、世界5カ国で5万台を超えるATMネットワークを通じて、いつでもどこでも誰もがアクセスできる社会インフラを確立し、必要とされる多様なサービスを提供する	   	多様なニーズに応えるサービス提供による収益機会の拡大	多様なサービス開発における知的資本の蓄積（日本初・世界初・業界初の技術力）	- 毎日294万人を超えるATMご利用者との顧客接点 - ATMとつながる680以上の提携先との関係構築		
3 お客さまの期待を超えた ユニークな価値を創る	「近くて便利」「安心・安全」をベースに、従来の金融サービスの概念にとらわれない「小売×金融」の新たなサービスの発展を通じて、日々の暮らしの中で、お客さまとつながる新たな価値を創造する	  	- 新たな領域でのサービス提供による収益機会の拡大 - AI／データ活用による業務効率化でコスト削減	- 独自のUI／UX開発による知的資本の蓄積 - AI／データ活用による社員スキルの向上 - AI／データ活用による新サービスの開発	外部パートナー企業との価値共創		
4 誰もが活躍できる 社会づくりを進める	セブン銀行グループ全体として、人権と多様性を尊重し、誰もが生きがい・働きがいを実感できる企業を目指し取り組む。さらに事業パートナーや提携先企業にも広げることで、多様性が活きる社会の実現につなげる	  	- モチベーションの高い人材による成長戦略の目標達成 - 高い企業イメージによる人財獲得コストの低減	- 働きやすさと働きがいを通じたエンゲージメントおよびパフォーマンスの向上 - 多様な人材の活躍によるイノベーションの創出	社外とのネットワーク構築によるブランド／レピュテーションの向上		
5 豊かな社会と 地球の未来に貢献する	将来世代に向けて地球と社会の未来を引き継ぐために、企業市民として、金融機関として、企業も社会も地球も持続可能であるためのさまざまな課題解決に取り組む	  	環境リスクの低減に向けた取組みによる将来的な気候変動コストの低減	社員の環境意識の醸成による環境配慮型サービスの開発	ATMパートナー企業との協働による環境・社会課題解決への取組み	新たな環境配慮型ATM開発の可能性	ATMネットワーク全体での環境負荷低減の取組み

重点課題の取組み

各重点課題においては、社会課題の解決につながる中長期目標を掲げており、当社グループのあらゆる業務、さまざまな取組みが紐づいています。特に、当社グループが注力する独創的で特徴的な取組みについてご紹介します。

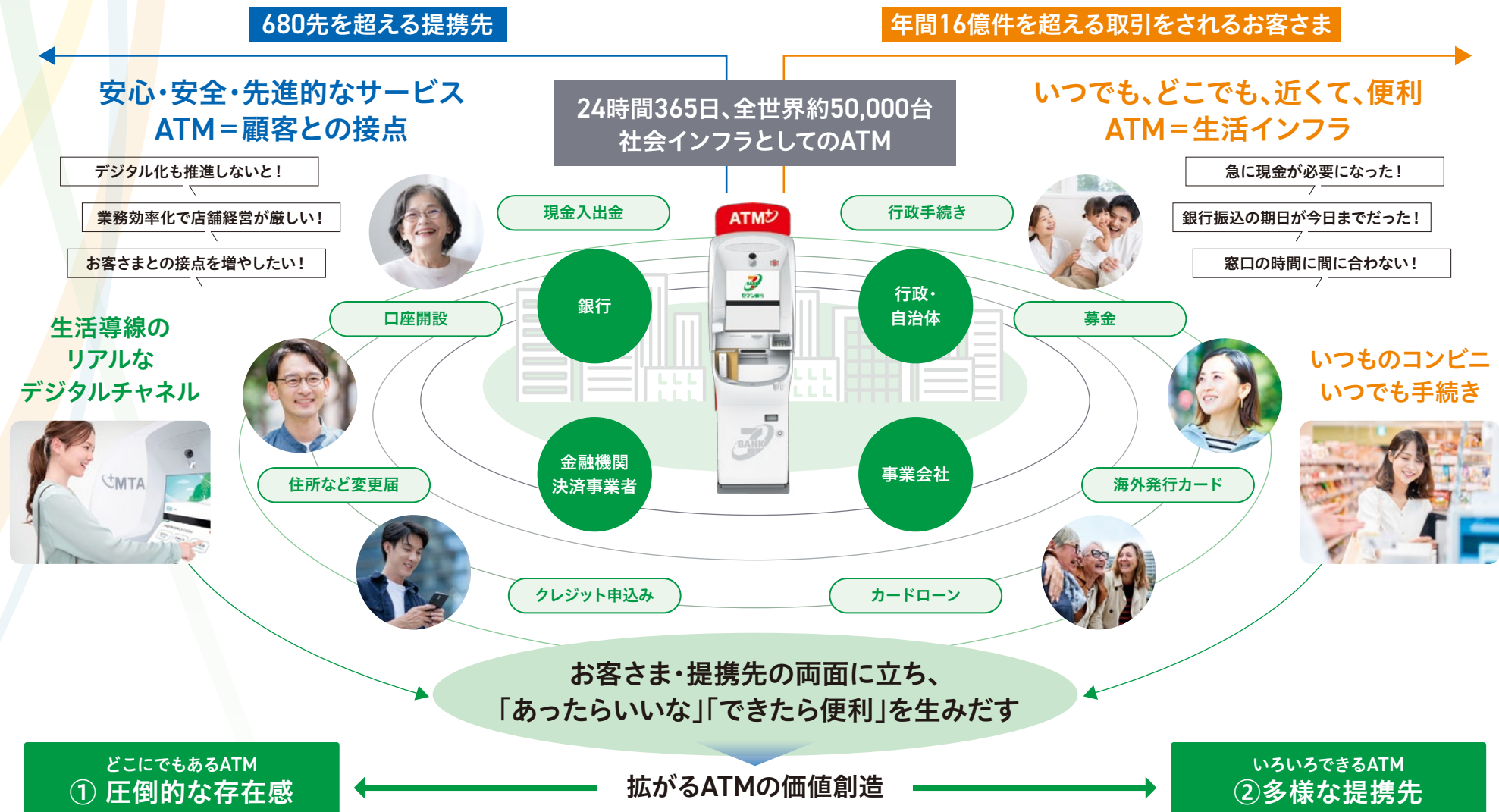
重点課題	中長期的な目標	成果指標（2024年度取組実績）	2024年度実績	目標
 根源的価値 1 いつでも安心・安全に使える 社会インフラを提供する	止まらない社会インフラの実現	24時間365日利用可能なATM	ATM稼働率 99.98%	ATM稼働率 99.98%以上
	堅牢なセキュリティ対策の徹底 安心・安全な金融インフラ・サービスの基盤構築	お客さまを金融犯罪から守るための不正利用防止対策を強化し、安心・安全な金融取引の仕組みを金融業界全体へ拡大 ・AML/CFT・金融犯罪対策カンファレンスの開催による、金融業界全体の理解・対策の底上げに貢献 ・グループ会社ACSion： — グーグル・クラウド・ジャパン合同会社と連携してフィッシング詐欺被害抑制を強化 — 公的個人認証サービス（JPKI）における主務大臣認定を銀行子会社として初取得し、不正検知ノウハウを組み合わせた新たな本人確認サービスの提供 ・グループ会社バンク・ビジネスファクトリー： — 為替取引分析業の許可を取得し、実効性の高いマネー・ローンダリング及びテロ資金供与対策プラットフォームを金融機関等に提供		
 社会的価値 2 誰でもどこでもアクセスできる 多様なサービスを実現する	安全性・利便性を両立するUI/UXの実現	お客さまに声に寄り添い、優れた操作性と魅力的なデザインで、顧客体験価値を向上 ・ATMのソフトウェアやUIデザインを内製する「ATM Design Studio」を立ち上げ、月1件以上の高頻度な改善を実現し、より魅力的なATMサービスを提供 ・「Myセブン銀行」アプリのデザインコンセプト「デザインシステム」を策定、アプリの明瞭性と視認性を向上させ、安心安全な取引をサポート		
	グローバルなATMネットワークの拡大	海外での現金ニーズに対応	海外ATM総利用件数 532.8百万件	海外ATM総利用件数 587.7百万件
	多様なニーズに対応するATMサービスの拡充	キャッシュレス・デジタル社会に対応	スマホATM 導入先数 110先（うち銀行22行）	多様なお客さまのニーズに対応したサービスを提供し、さらなる導入先の拡大と各サービスの認知・浸透を図る
		社会課題解決のための自治体給付金に対応	ATM受取 導入自治体数 11先	
		訪日外国人の現金ニーズに対応	海外発行カード 利用件数 14百万件	
視覚障がい者向けサービス拡充 ・預金口座の入出金と残高照会に加え、2024年10月より音声ガイダンス機能に電子マネーチャージを追加。 2024年度下期の音声ガイダンス総取引件数は14,221件（前年同期比117.1%）				

※数値および実績はいずれもセブン銀行単体のもの

重点課題	中長期的な目標	成果指標（2024年度取組実績）	2024年度実績	目標
 新たな価値創造 3 お客さまの期待を超えた ユニークな価値を創る	多文化共生社会の実現	簡単・便利・安心な 海外送金サービスの提供	海外送金件数 660千件	前年度実績以上
		日本にお住まいの外国籍の方への対応	ATMでの外国人口座開設数 3,084件 ※2024年12月よりサービスイン	前年度実績以上
	誰一人取り残されない デジタル社会づくり	ATMがあらゆる手続き・認証の 窓口となる世界の実現	「+Connect」提携先数 28先	さらなる導入先の拡大と 各サービスの認知・浸透を図る
		外部パートナーとの新たな価値協創 ・スタートアップ企業との共創プロジェクトから生まれたATMによるご祝儀収納サービス「つつむと」。2024年度は約600組の挙式で活用され、10,000件以上のご祝儀収納をご利用いただく		
	AI/データ活用による価値創造	AI/データを活かした新たな価値創造への取組み ・7iDの買い物データを活用した独自の与信スコアリングAIを開発し、実証実験を実施 ・コンタクトセンターではAIチャットボットの活用により、利便性向上と業務効率化を実現		
		IT活用による自部署の 業務プロセスの改善	市民開発アプリ数 79件	市民開発アプリ数 101件 （2026年3月末時点）
		生成AI活用による業務効率化の推進	7Bank-Brain（社内生成AI） 社員に占めるMAU率 30.1%	7Bank-Brain（社内生成AI）社員に占める MAU率 75% （2026年3月時点）
 価値創造の源泉 4 誰もが活躍できる 社会づくりを進める ※	社員の自律的成長と 自発的なキャリア形成の促進	社員一人ひとりが活躍できる職場環境や制度設計の推進 ・グループ・社内公募の実施、全社横断で異動するオープンキャリアに加え、 専門性深化を図る総合職のエキスパートコースを設置するなど、自発的なキャリア形成を支援		
	社員のウェルビーイングと エンゲージメントの向上	エンゲージメントスコア（Wevox）	71	前年度実績以上
		有給休暇取得率	81.9%	前年度実績以上
		育児休業復帰率	100.0%	100.0%
		男性育児休業取得率	61.5%	前年度実績以上
	多様性を受け入れ、 強みに変える企業風土の構築	女性管理職比率	18.7%	2030年までに30%以上
		連結社員における海外社員比率	17.1%	前年度実績以上
	多様な人権を尊重できる 社会づくりへの貢献	人権研修受講率	83.4%	100.0%
		コンプライアンス研修受講率	100.0%	100.0%
 将来への価値創造 5 豊かな社会と 地球の未来に貢献する	次世代向け金融教育の推進	金融教育の実施による学生の金融（犯罪）リテラシーの向上 ・小学生向け金融教育教材を提供し、2024年度末実績で約300校が活用 ・中学校や高校など16校を訪問し、累計約10,000人の生徒に金融犯罪対策の出張授業を実施		
	環境問題への取組みの拡充・拡大	GHG排出量	9t-CO ₂ （セブン銀行単体 Scope1） 816t-CO ₂ （グループ連結 Scope2）	前年度実績より削減 長期目標設定については今後検討予定
		廃棄ATMの資源循環の仕組みを構築	ATMリサイクル率 約100%	同水準を維持
	多様なステークホルダーへの 社会的責任の遂行	新たな募金スタイルを通じた社会課題解決への貢献 ・セブン銀行ATMで社会福祉団体に募金ができるサービスを提供（2024年度 ATMによる募金受付総額96百万円） ・チャリティ・キャンペーンを実施し、ラジオ・チャリティ・ミュージックソンに寄付金を贈呈（2024年度 チャリティ・キャンペーンを通じた寄付額 3.0百万円） ・ATM受取サービスご利用時にセブン・イレブン記念財団への募金を選択することが可能（2024年度 ATM受取サービスを通じた募金受付額 2.6百万円） ・セブン・カードサービスによるnanacoポイント募金の提供（2024年度 nanacoポイント募金受付額 2.2百万円）		

セブン銀行グループの競争優位

当社の強みは、創業以来、あらゆるリソースを投入し磨き上げてきた、世界でも類を見ないATMプラットフォーム事業。一人ひとりのお客さまと個々の提携先のニーズに寄り添い、改良・改善を積み重ね、独自のサービスを開発し続けることで、多様なニーズに対応できる社会インフラとして成長してまいりました。現在、世界約5万台のATMネットワークを擁し、680先を超える提携先サービスを社会に提供し、その取引件数は年間16億件を超えます。これからも、このネットワークを通じて、また、新たなニーズを吸い上げ、ATMのさらなる可能性を広げていきます。



ATMネットワークの拡大

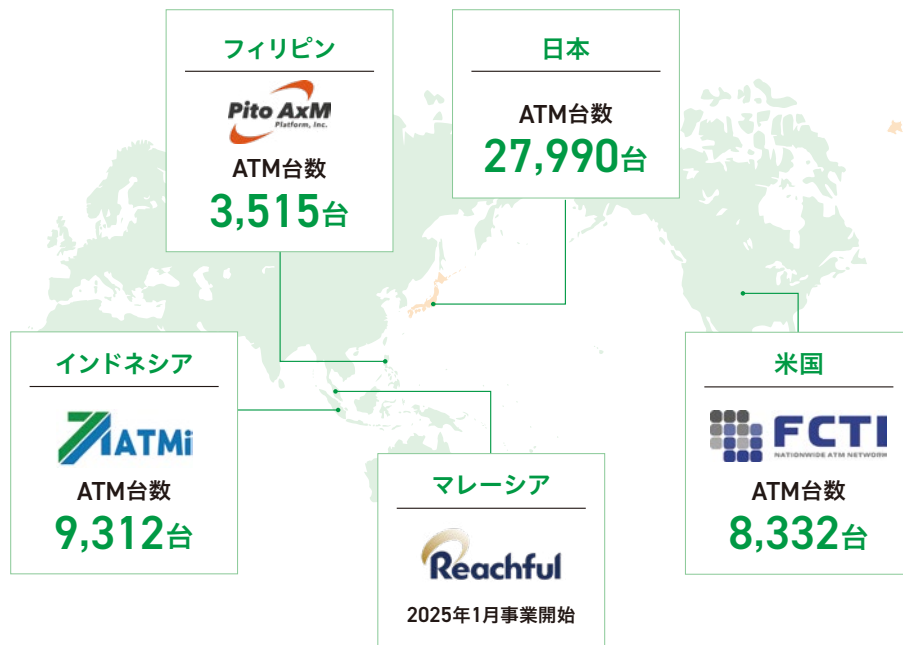
日本では、2024年度に第4世代ATMへの全台入れ替え・設置が完了しました。現金入出金取引にとどまらず、本人確認や顔認証機能を備えた多機能サービスプラットフォームとして、日本全国どこでもだれでもご利用いただけます。

また、海外では現金ニーズが強く、ATM設置の少ない地域に展開しており、身近な生活拠点で手軽にご利用いただけるATMネットワークを構築しています。

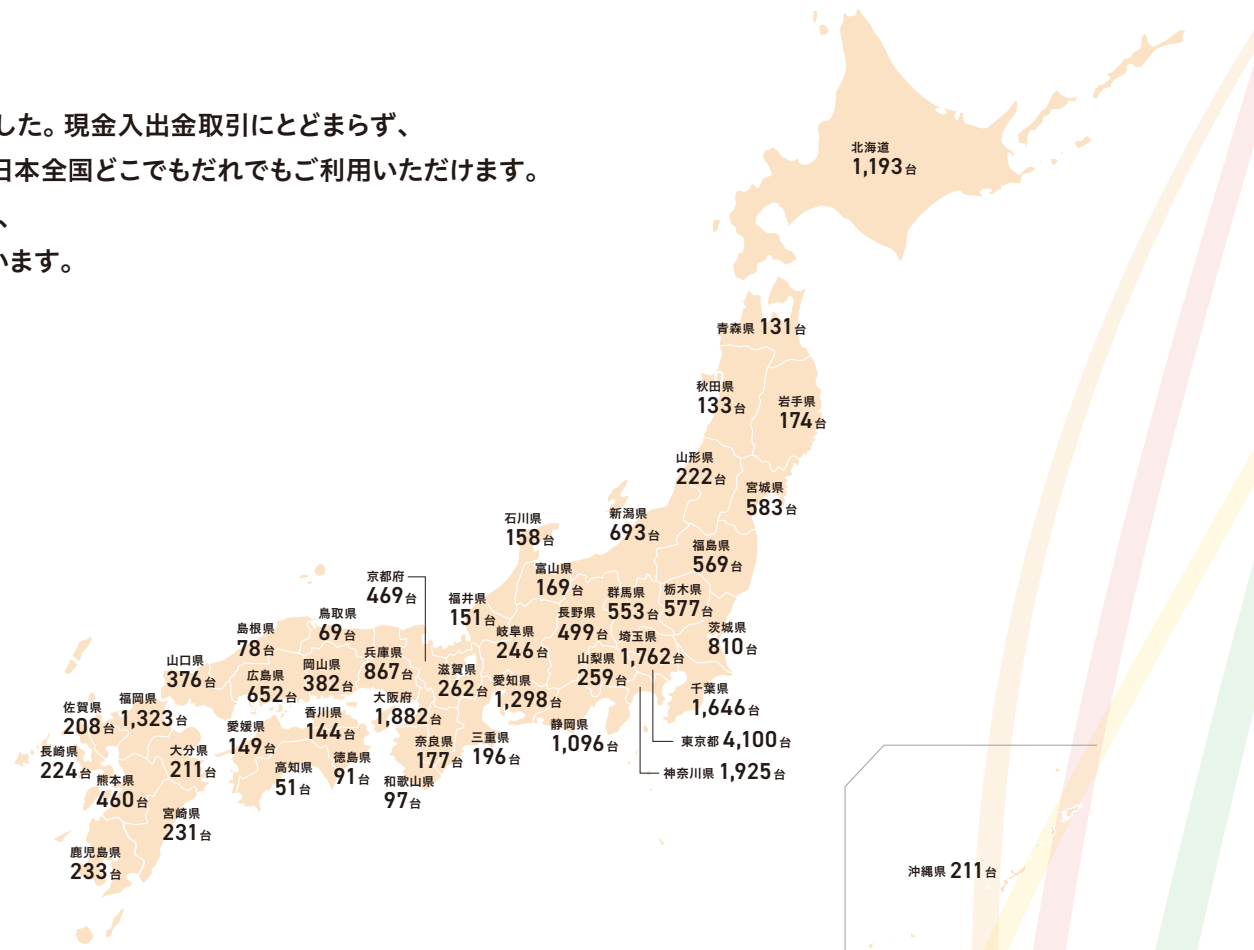
セブン銀行グループが運営するATMの台数

49,149台

(2024年度末時点)



※海外ATM台数は2024年12月末時点



セブン銀行グループの競争優位 ②多様な提携先 ATMサービスの拡大

日本国内で680以上の提携先とつながるATMは当社のみ。全国約28,000台のATMを通じて、それぞれの提携先企業が彼らのお客さまに提供したいサービスを安心・安全に稼働できるように、さまざまな取組みを実施しています。これからも当社のATMを活用し、日本全国に多様なサービスをお届けできるように、金融機関、事業会社、行政機関、スタートアップ企業と連携し、ATMの可能性を拡げていきます。

預貯金取扱提携金融機関 (2025年5月31日現在)

銀行 本店所在地別

北海道・東北地方



関東地方



中部地方



近畿地方



中国・四国地方



九州・沖縄地方



外国銀行



その他提携金融機関等 (2025年5月31日現在)

証券会社



生命保険会社



クレジットカード会社・信販会社・消費者金融会社・事業者金融会社・事業会社



提携ネットワーク (2025年5月31日現在)

海外発行カード(国際ブランド)



電子マネー

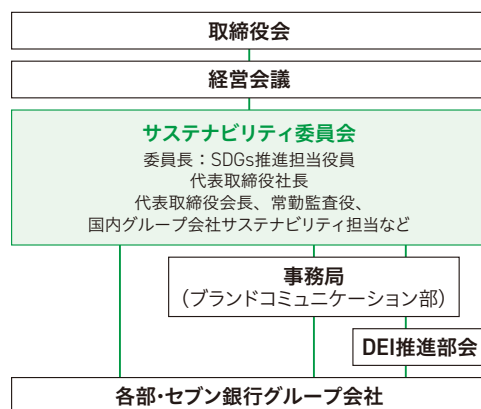


※マークが同じでも、ご利用いただけないカードがあります。

※一部サービスのロゴマークを掲載しています。

セブン銀行グループでは、「事業活動を通じて環境・社会課題の解決に積極的に取り組み、環境・社会と企業双方に価値を創り出すこと」および「お客さまや社会から支持され環境や社会と共存する企業として主体的に果たすべき社会的責務」をサステナビリティと定義し、長期的な経営戦略の根幹に位置づけ、多様化する社会課題の解決と新しい価値創造を目指し、さまざまな取組みを実践しております。

サステナビリティ推進体制

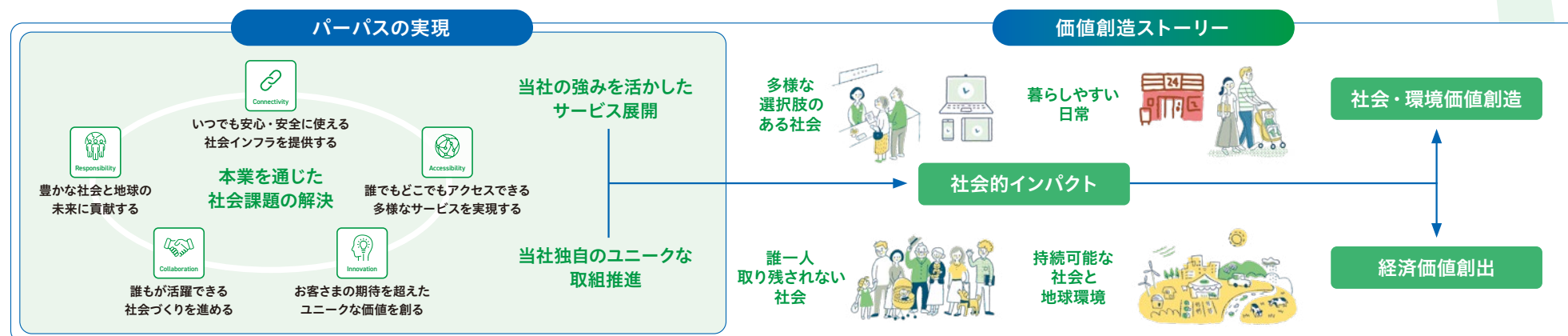


2024年度の取組み

テーマ別	具体的な推進取組み
気候変動対応 → 詳細 P63	- 新世代ATMへの置き換え推進によるCO₂排出量削減（1台あたり消費電力 前世代比40%削減） - セブン銀行グループ連結でのCO₂排出量（Scope2）算定を実施
人的資本経営 → 詳細 P56	- パーパス実現に向けた人財採用／育成、組織風土醸成施策を実施 - DEI推進部会主導でDEIについて研修を実施し、社内理解を促進
重点課題の策定・浸透	- 全社一体でのサステナビリティ推進に向けて、研修等の社内浸透施策を実施 - グループ会社を含めた各事業の取組みを集約し、KPIを設定
社会的責任の遂行（CSR）	未来世代への取組みや視覚障がい者の支援、社員参加型での環境貢献活動などを実施
ステークホルダーとの連携強化	社会や環境問題の解決に貢献できるATMネットワークの実現を目指し、主要サプライチェーン3社とATMパートナーサステナビリティ会議を立ち上げ活動

サステナビリティの考え方

重点課題の達成に向けた取組みを通じてパーパスを実現し、社会・お客さまと会社の双方に持続可能な価値を創出します。



価値創造ストーリー

重点課題 ① 重点課題 ② 重点課題 ③ 重点課題 ④ 重点課題 ⑤



根源的価値

いつでも安心・安全に使える社会インフラを提供する

課題

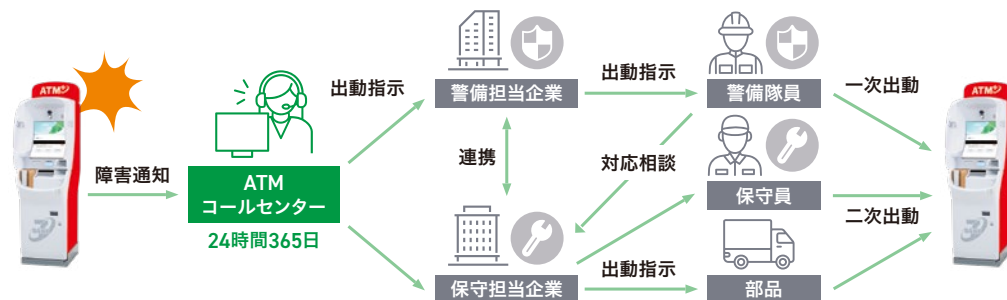
金融を取り巻く環境は大きく変化。デジタル決済が拡大する一方で、高度化・巧妙化が進む金融犯罪やサイバー攻撃の増加など、安心・安全な決済インフラの提供は重要課題の一つ。また、自然災害による被害が甚大化する中、安心・安全な生活基盤の確立や支援が必要とされている。

主な取組み

止まらない社会インフラの実現

ATMの稼働を支える仕組み

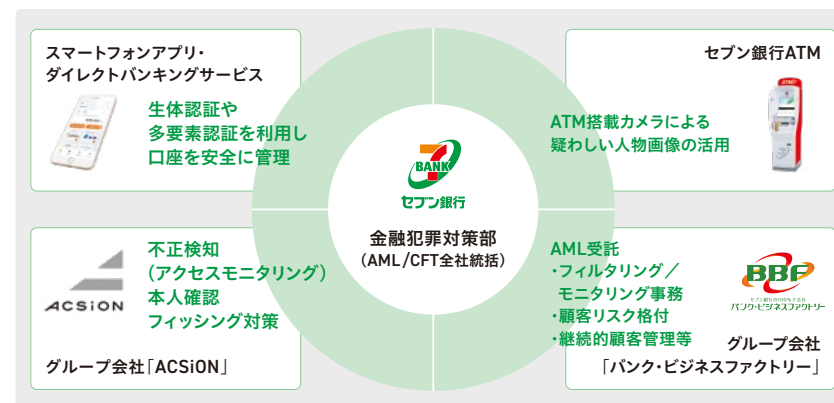
障害対応：ATMコールセンターでは、ATM全台の遠隔監視を実施。障害発生時は、同センターから遠隔でどここのATMでも迅速に対応。対応できない場合は、警備会社へ速やかに出動指示を行い、保守担当企業とも連携して適切な処置と早急なATMの復旧を目指す。



保守・運用：保守担当企業と協業して、AIを活用し、ATMが止まる前に部品交換を行う等の対処や、ATM一台一台の取引状況の把握によって警送警備ルート最適化を行っています。

堅牢な情報セキュリティ対策の徹底 安心・安全な金融インフラ・サービスの基盤構築

セキュリティ・金融犯罪対策の取組み



すべてのお客さまに安心してご利用いただけるよう、これまで培ってきた金融犯罪対策のノウハウや、全国約28,000台のATMネットワーク、グループ会社のITソリューションや知見を活かして金融犯罪対策に取り組んでいます。

創出したインパクト

社会・環境価値

いつでも安心・安全に使える
社会インフラ

稼働率99.98%の安定したATM稼働と効率的なネットワーク運営を通じて、
日本国内で年間10億件以上の取引件数を実現

経済価値

業務コスト削減、
ATM事業の収益貢献

重点課題 ①

重点課題 ②

重点課題 ③

重点課題 ④

重点課題 ⑤



社会的価値

誰でもどこでもアクセスできる多様なサービスを実現する

課題

地域格差やデジタルデバインド（情報格差）による課題解決に対応するためには、その代替となる社会・情報インフラの構築が不可欠。官民の連携強化による社会全体でのDX推進があらゆる世代・地域を超えて必要なサービスを楽しむ世界の実現につながる。

主な取組み

安全性・利便性を両立するUI/UXの実現

利用体験価値向上の追求



セブン銀行にとって、ATMはお客さまとの最大の接点。銀行員がいなくても短い時間でお客さまのニーズを叶え、心地よい利用体験となるようUI/UXには細部までこだわっています。口座サービスのスマートフォンアプリにおいても、お客さまの要望やご意見を取り入れ、常にアップデートを続けています。

多様なニーズに対応するサービスの拡充

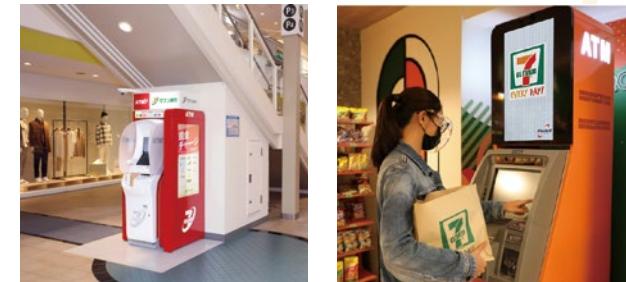
サービスプラットフォームへの進化



キャッシュレス決済の現金チャージや、外国人観光客が日本円を引き出せる海外発行カード取引、金融機関等の窓口業務を行うことができるサービスなど、従来のATMの概念を覆すような多様なサービスを開発・提供しています。2024年には、視覚障がいをお持ちの方向け音声ガイダンス取引を、電子マネーチャージにも拡充しました。

グローバルなATMネットワークの拡大

生活の身近な場所へのATM設置推進



日本と海外を合わせて、約5万台のATMネットワークを展開。総利用件数は16億件以上となり、いつでもどこでもアクセスできる社会インフラを確立しています。

創出したインパクト

社会・環境価値

金融アクセス性の向上に貢献

ATMが「社会で最もやさしいデジタルチャネル」となることを目指し、世界5カ国で1日のべ444万人が利用する社会インフラを確立

経済価値

当社の主要な収益源



新たな価値創造

お客さまの期待を超えたユニークな価値を創る

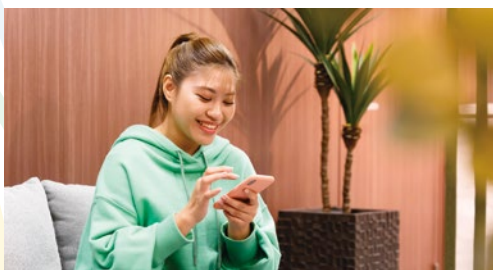
課題

デジタル技術の進化や生活スタイルの変化により、お客さまの価値観やニーズは多様化している。個々のお客さまニーズに合致した利便性の高い金融サービスの提供に加えて、新しい顧客体験の提供を通じてお客さまとの関係性を築くことも求められている。

主な取組み

多文化共生社会の実現

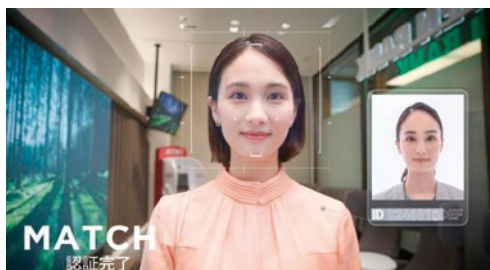
暮らしやすい日常のために



日本にお住まいの外国籍の方のニーズに合わせた海外送金サービスや、ATMで簡単に口座開設のお手続きができるサービスなどを多言語で提供しています。

誰一人取り残されないデジタル社会づくり

新たな金融体験の提供



ATMをリアルとデジタルをつなぐタッチポイントとして、さまざまな手続きや認証が可能となる「+Connect」サービスが拡大しています。2025年2月には、顔認証による現金入出金サービス「FACE CASH」を導入し、利便性と安全性を両立する新金融体験を提供しています。

AI/データ活用による価値創造

「7iD」の購買データを活用



セブン-イレブン等で利用される「7iD」の購買データを、個人向けローンサービスに活用し、新たな観点で与信審査を行う小売×金融のユニークな取組みを開始しました。また、社内ではさまざまなデータの活用や業務アプリの開発を一般社員が行う取組みが加速しており、生産性向上や付加価値の高い業務へのシフトが進んでいます。

創出したインパクト

社会・環境価値

社会課題の解決に
本業で貢献

従来の金融サービスの概念にとらわれないユニークな発想で、
お客さまの日々の暮らしに新たな価値を創造

経済価値

業務コストの削減、新たな収益源

重点課題 ①

重点課題 ②

重点課題 ③

重点課題 ④

重点課題 ⑤



価値創造の源泉

誰もが活躍できる社会づくりを進める

課題

これからは多様性を強みに活かす時代。経営においては多様な人財・多様な働き方に適した就労環境の整備や一人ひとりのキャリア開発とスキルアップが企業競争力強化のカギとなる。社会においては、国境・性別・宗教の違いを超えて、異なる文化や価値観を尊重し、協働することで、課題解決とさらなる発展につながる。

主な取組み

社員の自律的成長と自発的なキャリア形成の促進

学びと挑戦の場を豊富に提供



自ら課題を見つけ、パーパス実現のために意欲的に挑戦する人財の育成を目指し、研修講座などの学びとネットワーキングの機会を多数提供しています。また、2024年度は人事制度を改定し、キャリアコース制度を導入しました。さらに、業務時間全体の10%を自主的なイノベーション活動に充てる「EX10」を評価制度に組み込んでおり、セブン銀行社員の半数以上が設定しています。

社員のウェルビーイングとエンゲージメントの向上

働きやすさと働きがいの両立



社員がパフォーマンスを最大限発揮するために、働きやすい環境づくりを行うことが会社の重要な役割です。各種休暇を取りやすい制度設計、社内理解の促進、オフィスオープンデーなど交流機会の創出、パーパスへの共感と理解促進のためのアワード開催などを通じて、育児休業からの復職率は100%、エンゲージメントスコアは計測開始以来3年連続で向上しています。

多様性を受け入れ、強みに変える企業風土の醸成 多様な人権を尊重できる社会づくりへの貢献

誰もが活躍できる環境づくり



性別・年齢・国籍等を問わず誰もが活躍できる環境を作ることが、豊かな生活と社会の継続的な発展につながると考えています。当社の重点取組みは、女性活躍推進、シニア活躍推進、障がい者雇用です。一例として、女性活躍推進については、女性幹部候補育成プログラムへの派遣を通じて、管理職への昇進意欲と育児などのライフスタイルとの両立に関するマインドを醸成し、支援しています。

創出したインパクト

社会・環境価値

誰もが自分らしく活躍できる
豊かな社会

社員のエンゲージメントが高まり、
パーパスの具現化を通じて、社員と会社の共成長が実現

経済価値

さらなる成長加速と
企業価値の向上

パーパスアワード受賞者 座談会

重点課題 ①

重点課題 ②

重点課題 ③

重点課題 ④

重点課題 ⑤



パーパス実現と重点課題「誰もが活躍できる社会づくりを進める」への取り組みを、社員一人ひとりがどのように日々の業務に活かしているか。2024年度パーパスアワード受賞者4名の座談会を通じて、人財戦略と成長戦略の結びつきや、多様性を大切にする組織文化が新たな価値を生み出している様子を紹介します。

セブン銀行の「パーパスアワード」とは

パーパスを日々の業務に反映させた取り組みを表彰し、全社員に共有することで互いに刺激を与え、学びにつなげていくための社内イベント「パーパスアワード」を年に一度開催しています。各部・チーム単位で新規事業から既存業務の品質向上、事務改革まで、パーパスに沿った具体的事例をエントリーし、社員投票と社外取締役による審査を通じて優秀な事例を表彰する仕組みです。





パーパスアワード2024 企業変革部門受賞
「アクセラレータープログラム7回の軌跡と蓄積」
やまがた だい き
山方 大輝

外部企業との事業創造を目指すアクセラレータープログラムを2016年から7回開催。新サービスの創出や、出資先の発掘、合併会社の設立のほか、社内カルチャーの変革にも寄与した。

パーパス（存在意義）や重点課題をどう受け止めていますか？

山方 『「あったらいいな」を“超える”』という言葉は、お客さまが「絶対に必要だ」と感じるほどの大きな価値を

創造することだと解釈しています。だからこそ、その価値を提供できるサービスとは何かを常に問いながら、実現に向けて取り組んでいます。

またATMプラットフォーム事業はお客さまと直接触れ合う機会がなく、期待を超えられているのかがわかりにくい側面があるため、私は実際の利用者に直接会って声を聞き、価値を確かめることを大事にしています。

高尾 私はパーパスを決める際の話し合いに参加したこともあり、策定時から自分ごととして捉えてきました。常に、自分の業務がより良い日常の未来を創っていくのだと信じて取り組んでいます。

また重点課題では「お客さまの期待を超えたユニークな価値を創る」を意識することが多いです。これまでに無かったものを創り出すことは非常にワクワクしますし、それを通じて社会貢献できることはやりがいにもなっています。

川口 私の場合は、入社した際にすでにパーパスが定められていたので、正直最初はそれほど深く意識していませんでした。しかし、周りのメンバーがパーパスを指針として行動している姿を見て、次第にその重要性を実感し、意識が高まっていきました。

今回のパーパスアワードをきっかけに、さらに自分の中に定着してきたと感じています。

高津 私の所属するATMソリューション部では週に1度、パーパスエピソード（「あったらいいな」を超えてい

ると感じたサービスの紹介など）を発表する機会があり、常にパーパスを意識できる環境ができています。それもあったか、私自身も『お客さまの「あったらいいな」』を第一に考える姿勢が自然と身につきました。パーパスを意識することは、社会貢献を実感することにもつながり、



パーパスアワード2024 収益貢献部門受賞
「買い物データを活用した独自自信」
かわぐち りょう
川口 凌

セブン-イレブン等で利用されている「7iD」に紐づく購買データを活用し、従来の与信審査とは異なる審査手法を開発。従来の審査で融資を受けられなかったお客さまの不便を解消した。

重点課題 ①

重点課題 ②

重点課題 ③

重点課題 ④

重点課題 ⑤



パーパスアワード2024 経営基盤部門受賞

「FACE CASH」

たかお しょうご
高尾 庄吾

顔認証で入出金できる「FACE CASH」をリリース。生活のあらゆる場面で顔認証が活用される顔認証プラットフォーム構想を生みだし、「あったらいいな」を超える価値をお客さまに提供した。

日々の業務に意義を感じながら取り組んでいます。

また今回受賞した視覚障がい者向けのサービスに携わるようになってからは、重点課題の一つ「誰もが活躍できる社会づくりを進める」ことの重要性や意義をより深く感じるようになりました。

パーパスを普段の業務に どう落とし込んでいますか？

山方 新規事業を扱っているので、パーパスは常に意識します。お客さまの期待値がどこにあるかを考えることが重要な指針になっていますね。

高尾 私も、新しいテーマで事業構想を練るタイミングで「日常の未来とは何か」を考えることが多いです。

山方 構想時の設計がしっかりしていれば、実務に移ってもパーパスの実現に向かって進んでいると信じられるので、細かいタスクも粛々と進めることができます。

川口 確かにそうですね。私の場合多忙な日々で常にパーパスを意識するわけではありませんが、折に触れて役員や上司がパーパスを基にビジョンを語るのを聞くことで、自分もパーパス実現に向かっていくことを実感できています。

高津 私は判断に迷ったときに、パーパスを基準として考えるようにしています。例えば今回の取組みでは、ATMに新たに取り入れたい機能が無数にありましたが、限られた時間や予算の中で取捨選択を迫られた結果、どの機能がよりお客さまに求められているかという視点で優先順位を決めました。

高尾 迷ったときの指標になるというのは私も同じです。今回の取組みを行う際に、大きなコストやリソースを割く必要があり、やる・やらないの判断には悩みましたが、パーパス実現のために意義があるとし、実行ができました。もちろんコストカットは求められましたが、全社とし



パーパスアワード2024 社会貢献部門受賞

「視覚障がい者向けATMサービス拡充」

たかつ さき
高津 咲

視覚障がい者向けの音声取引サービスに、電子マネー取引機能を追加。「取引できる」をゴールにせず、「操作性」「安心感」「習慣に寄り添う」といった優しい工夫も盛り込んだ。

で目指すところがはっきりしているので、上司や経営層、関係各所も前向きに応援・サポートしてくださいました。

川口 社員がやりたいこと・やろうとしていることがパーパスに沿っていれば、全力で後押ししてくれるという企業風土は強く感じますね。また、困ったことがあれば、部署の垣根を超えてたくさんの人が協力してくれることも本当に心強いです。

山方 それは大いに感じますね。会社からの後押しという面では、パーパスへの貢献が人事評価に直結する仕組みが整ったことは、大きな転機でした。パーパスの実現を目指すことで、社会に貢献できる人材として成長できるだけでなく、会社での評価にもつながります。そのため、業務の目標や行動指針が明確になり、ぶれることなく一貫して進められるようになりました。

パーパス実現に向けた 今後の展望を教えてください。

山方 ATMプラットフォーム事業においては、「現金の入出金をする端末」という概念を超え、さまざまな機能を追加した多機能端末へと進化させていきたいです。さらに、既存の概念に捉われない新たなサービスも次々に生み出していくことが、事業の多角化や会社の成長という面で重要だと考えています。今回受賞した取り組みも

含め、将来振り返ったときに「第二創業に貢献した」と語られるような事業にするため、地道な努力を積み重ね、パーパスを体現していきたいです。

川口 『日常の未来を生みだし“続ける“』という言葉にあるように、単発で満足するのではなく、世の中に求められるサービスを継続して生みだし続けることが大切だと思っています。今回受賞した取り組みで得た知見を活かして、今後も「あったらいいな」を超えるサービスを世の中に届け続けたいです。

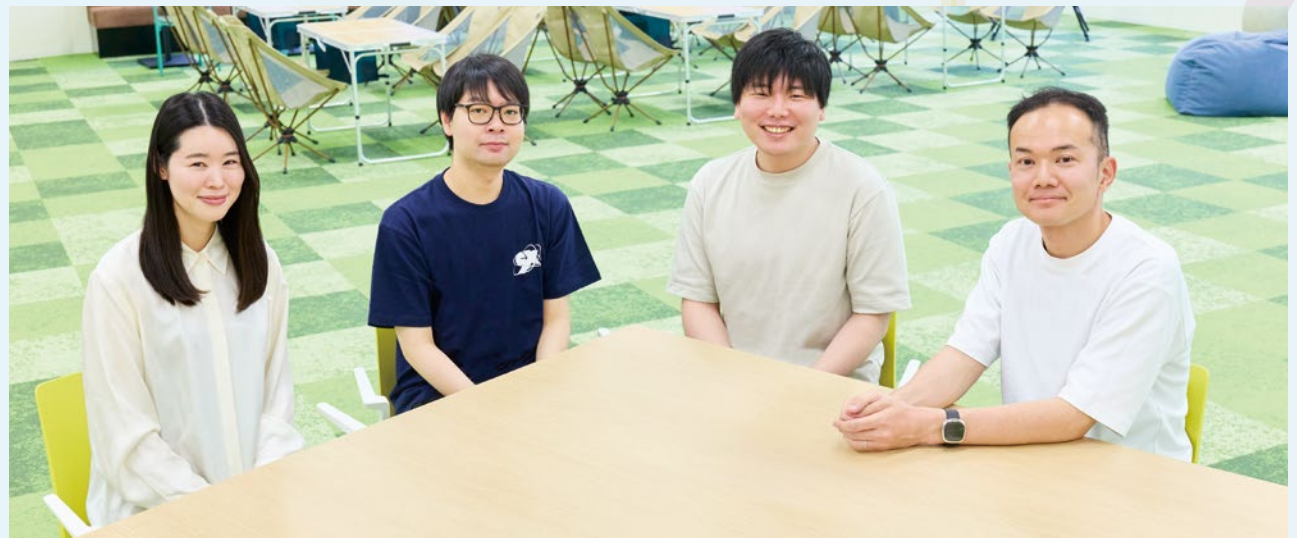
高津 私も、お客さまの期待を超え続けることが大切だと考えています。そのためには、常識に捉われず広い視野で考えることが必要です。例えば、現在の第4世代ATMでは音声ガイダンスサービスが通常の取引画面と別で開発されていますが、次世代機ではそもそも初めか

ら誰もが使える共通のユーザーインターフェースにできないかなど、「今の当たり前」を取り除いて考え、より良い日常の未来を創っていきたいです。

高尾 今回受賞した取り組みをさらに発展させることで、顔認証技術を活用し、手ぶらで旅行したり、病院で診察を受けたりできるような、便利でフリクションレスな世界を実現できると考えています。

現段階では、かなり未来的な構想に感じられるかもしれませんが、セブン銀行には豊富な知見やネットワーク、優れたメンバーがそろっており、これらのアセットを最大限に活用することで、今は想像できないような未来を次々と創り出すことができると確信しています。

顔認証技術は一例に過ぎませんが、このように、パーパス実現に向けて私たちが持つ力を駆使して、より良い未来を創り上げていきたいです。



価値創造ストーリー

重点課題 ①

重点課題 ②

重点課題 ③

重点課題 ④

重点課題 ⑤



将来への価値創造 | 豊かな社会と地球の未来に貢献する

課題

気候変動による気象災害や自然資本の損失など地球環境問題への対応は企業経営における喫緊の課題。また、金融機関としては、次世代に向けて、金融犯罪や詐欺の防止に加えて、電子決済やデジタル通貨など、新たな金融リテラシーの社会浸透も必要性を増す。

主な取組み

環境面でも進化を続けるATM

ATM開発にあたっては、環境負荷低減のため消費電力の削減を追求し、低消費電力部品の採用や回路設計の見直しなどを通じ、サステナブルな姿を実現しています。

2024年度には第4世代ATMに全台の入替が完了したことから、第4世代ATM導入前から国内ATM台数は約15%増加している一方で、CO₂排出量は導入前と比較し約30%削減をしております。

第2世代
ATM



消費電力
48%
削減

第3世代
ATM

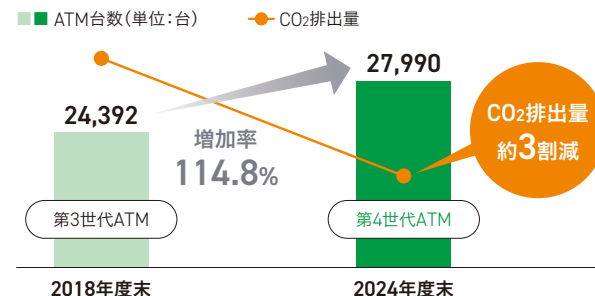


さらに
消費電力
40%
削減

第4世代
ATM



国内ATM台数／CO₂排出量



第4世代への全台入れ替え完了により、国内ATM全台のCO₂排出量は第4世代ATM導入前の2018年度末と比較し約3割程度の削減を達成

リサイクル率約100% ATMリユース・リサイクル

セブン銀行ATMは、リユース可能な設計により累計13,000台以上を再利用しています。撤去されたATMはNEC（日本電気株式会社）が回収し、清掃や動作確認を経てリユースし、新たな場所に設置されます。老朽化によりリユースができない場合はプラスチック素材等としてリサイクルされ、ATMのリサイクル率は約100%を実現しています。



環境に配慮した現金輸送へ EV化によるCO₂排出量削減

ALSOK株式会社は、グループ全体のCO₂排出削減を目指し、車両の脱ガソリン化を進めています。セキュリティの観点から重量と燃費に課題があった現金輸送車についても軽量化を実現しEV（電気自動車）の導入を進めております。これらの取組みを通じて、ATMサービスの現金輸送における環境負荷低減に取り組んでいます。



高度な環境性能を誇るデータセンター



株式会社野村総合研究所に提供いただいているセブン銀行のデータセンター※で消費される電力は、100%再生可能エネルギー由来のものを使用しており、環境に配慮した運営が特徴です。

また、国際規格であるISO14001の認証を取得しており、環境管理の取組みも行っています。さらに、AI技術を活用してコンピューター室の空調設定を最適化するなど、エネルギー節約にも努めています。

※当社のデータセンターは株式会社野村総合研究所の提供する国内データセンター2か所と日本マイクロソフト株式会社が提供するパブリッククラウドプラットフォームになります。

次世代向け金融教育の推進

学生向け金融教育の実施



株式会社ARROWSの学校授業提供サービス「SENSEIよのなか学」を通じ小学生向けの金融教育教材を提供し、約300校の学校に活用いただいております。

また、未成年が違法口座売買に巻き込まれるケースが増える中、警察と連携し、セブン銀行の社員が中学校や高校に向いて注意喚起を行う活動も実施しております。

社会的責任の遂行

「森の戦士ボノロン」の取組み



セブン-イレブン店舗などで無料配布される絵本「森の戦士ボノロン」に2005年から協賛し、2025年6月に創刊20周年を迎えました。

子どもたちが家族と絵本を楽しむ機会を提供するとともに、全国児童館への絵本寄贈や読み聞かせ用大型絵本作りなどの支援も実施しています。

創出したインパクト

社会・環境価値

環境負荷の低減、社会と環境に
やさしいATMネットワーク

環境や社会と共存する企業として、
事業活動を通じ環境・社会課題解決を推進

経済価値

気候変動コストの低減と
新たな収益機会の創出